

音曲技法書（伝書）の総合的研究

研究代表者：藤田隆則 プロジェクト研究

共同研究員：朝原広基、安納真理子、上野正章、恵阪悟、大谷節子、大山範子、沖本幸子、鎌田紗弓、近藤静乃、柴佳世乃、柴田真希、藺田郁、高桑いづみ、高橋葉子、田草川みずき、玉村恭、中尾薫、中嶋謙昌、永原順子、丹羽幸江、坂東愛子、PELLECCHIA Diego、森田都紀、横山太郎、吉岡倫裕

開催趣旨：

音曲の技術書（伝書）の多くは、音の長さや高さの規則に言及するより前に、発音、発声法、呼吸法、装飾法、宇宙観など、いわゆる「音楽以外」の要素におおく言及する。したがって、言語学、文学、宗教学、音楽学、歴史学などの知を結集させなければ、音曲の技術書をまるごと理解することはできない。

本研究会は、仏教や神道などの宗教儀礼、能や平家などの中世芸能、義太夫節などの近世芸能における音曲技術書（伝書）研究を、主な研究対象とする。それぞれの種目を専門に研究してきた研究者が、種目をこえて集い、専門とする技法などを紹介しあうことによって、種目間の類似性と差異を了解しあうことが目的となる。たとえば、ユリやフリは、多くの種目で共通して用いられる技法名であるが、それが指す内容は異なる。その情報共有をおこなう。

研究会を、ふたつの部会にわけて開催する。ひとつの部会では、能の謡の音曲伝書をいくつかとりあげて、ていねいに現代語訳する作業をおこなう。対象となる技術書は『謡鏡』である。もうひとつの部会では、羽衣の映像のウェブ公開を目的としつつ、ウェブサイトにおける能楽の楽譜の提示方法について検討する。

2020 年度の研究会

時間：13 時—17 時

場所：日本伝統音楽研究センター（新研究棟 8 階およ

びオンライン)

5 月 1 日（金） 音曲技法書輪読

5 月 8 日（金） 羽衣の楽譜作成のための検討会

5 月 15 日（金） 音曲技法書輪読

5 月 27 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

6 月 3 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

6 月 5 日（金） 音曲技法書輪読

6 月 10 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

6 月 11 日（木） 羽衣の楽譜作成のための検討会

6 月 12 日（金） 羽衣の楽譜作成のための検討会

6 月 19 日（金） 羽衣の楽譜作成のための検討会

6 月 24 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

7 月 1 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

7 月 3 日（金） 音曲技法書輪読

7 月 8 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

7 月 17 日（金） 羽衣の楽譜作成のための検討会

8 月 7 日（金） 音曲技法書輪読

8 月 14 日（金） 音曲技法書輪読

8 月 24 日（月） 羽衣の楽譜作成のための検討会

8 月 25 日（火） 羽衣の楽譜作成のための検討会

8 月 26 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

9 月 7 日（月） 羽衣の楽譜作成のための検討会

9 月 11 日（金） 音曲技法書輪読

9 月 23 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

9 月 25 日（金） 羽衣の楽譜作成のための検討会

10 月 2 日（金） 音曲技法書輪読

11 月 13 日（金） 音曲技法書輪読

12 月 2 日（水） 羽衣の楽譜作成のための検討会

12 月 4 日（金） 音曲技法書輪読

12 月 8 日（火） 羽衣の楽譜作成のための検討会

12 月 25 日（金） 羽衣の楽譜作成のための検討会

1 月 8 日（金） 音曲技法書輪読

2 月 5 日（金） 音曲技法書輪読

3 月 5 日（金） 音曲技法書輪読

儒教と文人の世界観に展開する「楽」思想の諸相研究

研究代表者：武内恵美子 共同研究

共同研究者名

明木茂夫（中京大学 教授）、遠藤徹（東京学芸大学、教授）、小林龍彦（前橋工科大学 名誉教授）、小島康敬（国際基督教大学 教授）、高橋博巳（金城学院大学 名誉教授）、平木實（天理大学 元教授）、南谷美保（四天王寺大学、教授）、山寺美紀子（國學院大學北海道短期大学部、兼任講師）、渡辺信一郎（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 所長）、趙維平（上海音楽学院 教授）、唐権（華東師範大学外国語学院、助教授）、平間充子（京都市立芸術大学 客員研究員）

研究の趣旨（目的・意義・特色など）

本研究は、平成 25 年度から 4 年間かけて行ってきた共同研究「近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ」の成果を踏まえ、更に展開させるものである。

儒教は古代中国に端を発し、東アジア全体に波及し多大な影響を及ぼした思想、宗教である。その中心的役割の一軸として「楽」思想があるが、楽思想は単に音楽の思想にとどまらず、政治、文学、歴史、数学、天文学と関連し、また儒学を超えた、文人世界の形成にも大きく影響を及ぼした。

日本にもその影響は及び、古代から近世にかけて、研究・普及がなされてきた。また、江戸時代には、文人的概念が定着し、日本に於いても独自の世界観が成立、展開した。これら楽思想を通して展開した文化に共通する、普遍的な世界観を、様々な角度から見出し、東アジア世界との対比も含めた文化の諸相を多角的に見出すことを目的とする。

この種の研究は近年ようやく行われるようになってきたが、分野を超えた交流はなかなか実現できない。共同研究の形態で、思想史、文化史、音楽学、歴史学、数学史など、学際的に 1 つの話題を議論する場を提供し、それぞれの分野の認識を深めつつ、ジャン

ルを超えた文化の概念を探ることが本研究の意義であり特徴である。

2020 年度の研究会

2021 年 3 月 24 日 部会 譜本の検討

2021 年 3 月 27 日 部会 譜本の検討 2

2021 年 3 月 30 日 部会 譜本の検討 3

下京・大学から発信する日本音楽研究

研究代表者：竹内 有一 共同研究

共同研究員：青木由貴（邦楽演奏家）、大西秀紀（本学客員研究員）、神津武男（早稲田大学演劇博物館招聘研究員、本学客員研究員）、小西志保（邦楽演奏家、竹内研究室研究嘱託員）、竹口等（京都文教大学名誉教授、崇仁教育連絡会顧問）、常岡亮（邦楽演奏家、常磐津協会理事）、細野桜子（邦楽演奏家、新内協会正会員）、村井陽平（札幌大谷大学芸術学部美術学科専任講師）

趣旨

京都・下京および本学の環境から見いだすことのできる日本音楽研究のいくつかの課題について、課題ごとにチームを組み、実践的・実務的な作業を軸に、基礎研究とアーカイブ化を進める。

◇課題 1（新規）：常磐津節の昭和期音源資料の調査

2020 年度前期に本研究センターで進められた委託研究「常磐津家元所蔵オープンリール音源のデジタル化」（委託者：小西志保）の成果として納品された音源資料をもとに、その目録化、収録内容の精査（曲目、演奏者等）を進めることを目的とする。今年度はコロナ禍により、音源資料を良好な状態かつ簡易な方法で共有し視聴するための作業を進めることができず、準備のためのミーティングのみ実施した。

◇課題 2（継続）：崇仁祭囃子の歴史と伝承

2019～2020 年度の本学特別研究助成による作業の統括、および崇仁地域と大学の交流を着実に発展させることを目的とし、いくつかの作業を軸に研究を進めた。研究状況は、以下の各回に記載した。

◇課題3（新規）：日本伝統音楽に関する江戸期史料の基礎的研究

日本伝統音楽に関する文献資料（謡本・浄瑠璃本・うた本、理論書・歴史書など）について、書誌的な側面に着目しながら、所蔵調査、読み合わせ、参考文献の調査など、総合的な研究を進めた。研究状況は、以下の各回に記載した。

第1回 2020年5月1日（金）11時-16時、場所：オンライン会議室（GoogleMeet）+新研究棟805研究室

今年度の研究計画1（課題全体）（神津・小西・竹内・細野）

第2回 2020年5月8日（金）13時-17時、オンライン

今年度の研究計画2（課題2・3）（小西・竹内）

別回 2020年5月10日（日）17時-18時、オンライン

コロナ禍での崇仁祭囃子の運営（小西・竹口・竹内、崇仁お囃子会：楳村・片岡）

第3回 2020年5月15日（金）13時-17時、オンライン

今年度の研究計画3（課題3）（神津・小西・竹内・細野）、研究短信「TAROとの連携による新内節プロジェクトの近況について」（細野）

第4回 2020年5月22日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

今年度の研究計画4（課題3）（神津・小西・竹内・細野）

別会 2020年5月23日（土）18時-20時、場所：崇仁新町

コロナ禍での崇仁祭囃子の運営（竹口・竹内、崇仁お囃子会：楳村・片岡）

第5回 2020年5月29日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

版本書誌学に関する参考文献1（神津・小西・竹内）

別会 2020年5月30日（土）18時-20時、場所：崇仁新町

コロナ禍での崇仁祭囃子の運営（竹内、崇仁お囃子会：楳村・片岡）

第6回 2020年6月5日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

版本書誌学に関する参考文献2（神津・小西・竹内）

第7回 2020年6月12日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

『日本古典音楽文献解題』の考察1（神津・小西・竹内・細野）

第8回 2020年6月19日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

『日本古典音楽文献解題』の考察2（神津・小西・竹内・細野）

第9回 2020年6月26日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

地歌本の書誌的特徴1（神津・小西・竹内・細野）

第10回 2020年7月10日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

名古屋版正本の書誌的研究1（神津・小西・竹内・細野）

別会 2020年7月14日（火）19時-20時30分、下京青少年活動センター

崇仁お囃子体験教室の計画（小西・竹内・細野、崇仁お囃子会：楳村・片岡、ほか）

第11回 2020年7月17日（金）13時-17時、オンライン+805研究室

名古屋版正本の書誌的研究2（神津・小西・竹内・細野）

第12回 2020年7月25日（土）9時-15時、崇仁児童館

崇仁お囃子体験教室（崇仁児童館・崇仁教育連絡会主催）の実施協力（小西・竹内、崇仁お囃子会：楳村・片岡ほか、美術学部学生、ほか）

第13回 2020年7月31日（金）10時-15時、オンライン+805研究室

関西圏の浄瑠璃本コレクションについて1（神津・小西・竹内・細野）

第14回 2020年8月3日（月）9時-17時、オンライン+805研究室

関西圏の浄瑠璃本コレクションについて2（神津・小西・竹内・細野）

別会 2020年8月6日（木）19時-20時、下京

- 青少年活動センター
崇仁お囃子会の月例稽古とミーティング（小西・竹内、崇仁お囃子会：榎村・片岡・藤尾ほか）
- 第15回 2020年8月7日（金）11時-15時、
オンライン+ 805 研究室
コロナ禍における前期の中間報告と後期の研究計画（小西・竹内・常岡・村井・細野）
- 第16回 2020年8月14日（金）11時-16時、
オンライン+ 805 研究室
上方版正本の書誌的特徴4（神津・小西・竹内・細野）
- 第17回 2020年8月21日（金）11時-16時、
オンライン+ 805 研究室
上方版正本の書誌的特徴5（神津・小西・竹内・細野）
- 第18回 2020年8月25日（火）9時30分-15時、
オンライン+ 805 研究室
上方版正本の書誌的特徴6（神津・小西・竹内・細野）
- 別会 2020年9月3日（木）19時-20時、下京青少年活動センター
崇仁お囃子会の月例稽古とミーティング（小西・竹内、崇仁お囃子会：榎村・片岡・藤尾ほか）
- 第19回 2020年9月4日（金）13時-17時、
805 研究室
常磐津家元所蔵正本における捺印（印影）の考察（小西・竹内・細野）
- 第20回 2020年9月13日（日）14時-19時、
805 研究室
常磐津家元所蔵正本における捺印（印影）・墨筆・朱筆の考察（小西・竹内・常岡）
- 第21回 2020年9月14日（月）10時-16時、
オンライン+ 805 研究室
研究報告1「幕末期常磐津家元の印判」（竹内）、研究報告2「常磐津家元オープンテープのデジタル化に関する中間報告」（小西）、研究報告3「常磐津家元所蔵正本の書誌一巻次と編纂者一」（竹内）、資料紹介「西山吟平旧蔵一中節正本について」（竹内）、出席：大西・神津・小西・竹内・常岡・細野
- 第22回 2020年9月15日（火）10時-16時、
805 研究室
西山吟平旧蔵一中節正本の調査（小西・竹内・常岡・細野）
- 第23回 2020年9月18日（金）9時-16時、
オンライン+ 805 研究室
義太夫節の浄瑠璃本調査の近況1（神津・小西・竹内・細野）
- 第24回 2020年9月25日（金）13時-17時、
オンライン+ 805 研究室
義太夫節の浄瑠璃本調査の近況2（神津・小西・竹内）
- 別会 2020年10月1日（木）19時-20時、下京青少年活動センター
崇仁お囃子会の月例稽古とミーティング（小西・竹内、崇仁お囃子会：榎村・片岡・藤尾ほか）
- 第25回 2020年10月2日（金）13時-17時、
オンライン+ 805 研究室
近代長唄正本の書誌的調査1（神津・小西・竹内・細野）
- 第26回 2020年10月30日（金）13時-16時、
オンライン+ 805 研究室
近代長唄正本の書誌的調査2（神津・小西・竹内・細野）
- 第27回 2020年11月6日（金）13時-16時、
オンライン+ 805 研究室
近代長唄正本の書誌的調査3（神津・小西・竹内・細野）
- 第28回 2020年11月13日（金）13時-16時、
オンライン+ 805 研究室
近代の清元正本の書誌的特徴1、最近入手した稀観常磐津正本（神津・小西・竹内・細野）
- 第29回 2020年11月15日（日）14時-18時、
805 研究室
常磐津節の伝承資料『老の戯言』の読み合わせ・語釈・翻刻・考察（小西・竹内・常岡）
- 第30回 2020年11月16日（月）11時-17時、
805 研究室
同上（小西・竹内・常岡・細野）
- 第31回 2020年11月17日（火）13時-16時、
805 研究室

同上 (小西・竹内・常岡)

第 32 回 2020 年 11 月 20 日 (金) 13 時 -16 時、805 研究室
稀覯常磐津正本「秋色姿菊蝶」の現物閲覧、節用集の書誌調査、浄瑠璃「桂川」の台本内容について (神津・小西・竹内・細野)

第 33 回 2020 年 11 月 27 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
坂川屋板木研究の進捗状況 (神津・小西・竹内・細野)

第 34 回 2020 年 12 月 4 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
伝書『都の錦』『老の戯言』における義太夫節関係の記述について (神津・小西・竹内・細野)

第 35 回 2020 年 12 月 11 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
2020 年度の今後の研究計画について、東京の某氏所蔵の義太夫節正本について (神津・小西・竹内・細野)

第 36 回 2020 年 12 月 18 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
これまでの研究状況の整理 (神津・小西・竹内・細野)

第 37 回 2021 年 1 月 8 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
購入した資料と今後購入する資料について (神津・小西・竹内・細野)

第 38 回 2021 年 1 月 15 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
今年度の研究成果の取りまとめについて 1 (神津・小西・竹内・細野)

第 39 回 2021 年 1 月 17 日 (日) 14 時 -18 時、805 研究室
『老の戯言』の読み合わせと解説 (小西・竹内・常岡)

第 40 回 2021 年 1 月 18 日 (月) 11 時 -17 時、805 研究室
同上

第 41 回 2021 年 1 月 19 日 (火) 11 時 -15 時、805 研究室

同上

第 42 回 2021 年 1 月 22 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
今年度の研究成果の取りまとめについて 2 (神津・小西・竹内・細野)

第 43 回 2021 年 2 月 5 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
書誌学に関する参考文献の紹介、来年度の計画について 1 (神津・小西・竹内・細野)

第 44 回 2021 年 2 月 12 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
板木研究に関する出版物、来年度の計画について 2 (神津・小西・竹内・細野)

第 45 回 2021 年 2 月 19 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
重要無形文化財指定の動向と指定者が所蔵する史料について (神津・小西・竹内・細野)

第 46 回 2021 年 2 月 26 日 (金) 13 時 -16 時、805 研究室
『老の戯言』影印と翻刻のまとめ (小西・竹内・細野)

第 47 回 2021 年 3 月 1 日 (月) 10 時 -16 時、805 研究室
歌舞伎役者遺族所有の江戸期史料について、オンライン会議を利用した高校生による伝統芸能取材活動について (神津・小西・竹内・細野)

第 48 回 2021 年 3 月 5 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
来年度の計画について 3 (神津・小西・竹内・細野)

第 49 回 2021 年 3 月 12 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
『豊後系浄瑠璃集』について (神津・小西・竹内・細野)

第 50 回 2021 年 3 月 19 日 (金) 13 時 -16 時、オンライン+ 805 研究室
『豊後系浄瑠璃集』について 2、来年度の計画について 4 (神津・小西・竹内・細野)

雅楽および関連芸能の歴史的音楽動作様式をさぐる ―多様な解釈の可能性―

研究代表者：田鍬智志

共同研究

共同研究員：今 由佳里（鹿児島大学教育学部准教授）、中尾 薫（大阪大学大学院文学研究科准教授）、平野 みゆき（金蘭千里高等学校中学校社会科教諭）、上野 正章（大阪大学招聘研究員）、増田 真結（京都教育大学教育学部専任講師）、Andrea GIOLAI（ライデン大学人文学部日本学科助教）

趣旨：雅楽において楽譜・舞譜は、古今それぞれの時代に撰述がなされ、少なからず伝存している。備忘的・簡易的記譜法で記されているそれら楽譜史料は、解釈如何によって、そこから様々な音楽・舞踊が立ち現れるものである。当研究会では、メンバー夫々が対象とする音楽・芸能に対し（唯一の解釈に収斂させてしまうのではなく）さまざまなアプローチにより、さまざまな解釈を提示しあって、さまざまな再現・復興の可能性を追求した。

■ 2020 年度研究会開催日

9月24・25日 和琴レコーディング、10月2日、同3日 リモート編集会議、同16・24・30日、11月20日、12月4・28日、1月4・8・10・18・21日、同31日 リモート編集会議、2月6・24・26日 リモート編集会議、3月1・2・3・4・6・7・16日 リモート編集会議、同24・31日。

■ 2020 年度の活動内容

9月24・25日には、箏曲演奏家中川佳代子氏と録音技術者山口友寛氏（本学音楽学部非常勤講師）を招いて、『琴歌譜』解説による《茲都歌》《歌返》および『催馬楽略譜』『梁塵秘抄』等にもとづく歌・和琴による催馬楽《伊勢海》の録音をおこなった（増田氏研究課題）。

最終年度となる今年度は、CD・DVDつき報告書『雅楽のイロイロを科学する本』の刊行にむけての編

集作業が主であった。新型コロナウイルス感染防止のため編集会議はリモートで行った。3月31日報告書を刊行し当研究会は終了した。

■日本伝統音楽研究センター研究報告 13『雅楽のイロイロを科学する本』（CD・DVDつき）の内容
掲載論文

増田 真結「『琴歌譜』の解説―平安初期大歌の旋律と和琴奏法」（附属 CD: T01~03）

田鍬 智志「『源氏物語』に描かれる雅楽曲―平安末期の様式で再現する」（CD: T04~08）

家塚 智子「『七十一番職人歌合』にみる音楽表現と『源氏物語』」

増田 真結「『催馬楽略譜』『梁塵秘抄口伝集』『懐竹抄』『仁智要録』に基づく催馬楽〈伊勢海〉の再現」（CD: T09~11・附属 DVD: C01~02）

田鍬 智志「掌中要録・続教訓抄から探る鎌倉期舞楽―《甘州》全五帖と入綾の再現」（CD: T12~13・DVD: C03~04）

平野 みゆき「四天王寺に伝わる舞楽曲「早甘州」―その成立と変遷」

田鍬 智志「経義と中世寺院の稚児、そして芸能」（DVD: C05）

今 由佳里「地域に伝承される芸能を継承する課題―鳥名子舞の事例から得る示唆」

上野 正章「雅楽の独習―本を見て龍笛で《越天楽》を練習する試みについて」（CD: T14~24）

田鍬 智志「音楽実践をもって徳を積む―平安後期・鎌倉期の管絃講（往生講式）、そのころ」（DVD: C06~13）

アンドレア ジョライ *Hearing the Past, Sounding the Text: On Gagaku as Acoustic Palimpsest*（過去を聴取する・テキストを音にする―音響的パリンプセストとしての雅楽をめぐる）

■『雅楽のイロイロを科学する本』附属 CD の内容
CD マスタリング：山口 友寛

T01 《茲都歌》～『琴歌譜』より～

T02 《歌返》～『琴歌譜』より～

- 歌・和琴：中川 佳代子 録音：山口 友寛
令和 2 年（2020）9 月 24・25 日収録、京都市立芸術大学講堂
- T03 《石上流泉》～『三五要録』より～
琵琶：田鍬 智志 令和 3 年（2021）1 月 6 日収録
- T04 《青海波》～楽一返・詠・垣代音取・詠・唱歌・垣代音取・詠・唱歌・楽一返～
- T05 《胡蝶楽》～破一返・急二返～
- T06 《想夫恋》～楽二返（初返は箏独奏、第二返は和琴と琵琶の二重奏）～
- T07 《陵王》～荒序八帖・入破二返～
- T08 《酣酔楽》～破二返・急二返～
箏・琵琶・和琴・鞆鼓・三ノ鼓・鉦鼓・太鼓・筆箏：
田鍬 智志 龍笛・高麗笛：伊藤 慶佑 笙：陳 宗彤
詠・唱歌：吉岡 倫裕
平成 28 年（2016）年 8 月収録（青海波・胡蝶楽・酣酔楽）
令和 2 年（2020）年 10 月 21・26 日収録（想夫恋・陵王）
- T09 催馬楽《伊勢海》～『催馬楽略譜』と『梁塵秘抄口伝集』の調絃による～
- T10 催馬楽《伊勢海》～『催馬楽略譜』と『懐竹抄』の調絃による～
- T11 催馬楽《伊勢海》～『催馬楽略譜』と増田真結考案の調絃による～
歌・和琴：中川 佳代子 録音：山口 友寛
令和 2 年（2020）9 月 24・25 日収録、京都市立芸術大学講堂
- T12 只拍子様《萬歳楽》～『仁智要録』『三五要録』による～
- T13 楽拍子様《萬歳楽》～『仁智要録』『三五要録』による～
箏・琵琶：田鍬 智志 令和 2 年（2020）8 月 27 日収録
- T14～24 龍笛《越殿楽》独習 音例 01～14
龍笛独習被験者：伊藤 亜希子
インタビュアー：上野 正章

- 『雅楽のイロイロを科学する本』附属 DVD 内容
DVD 映像編集：東 正子
- C01 双調《烏破》三返・《烏急》三返
- C02 平調《萬歳楽》三返・《甘州》三返
～箏『仁智要録』と『梁塵秘抄口伝集』にもとづく和琴推定創作による～
箏：江野 俊江、和琴：中川 佳代子
撮影：東 正子
平成 31 年（2019）3 月 30 日、京都市立芸術大学大学会館ホール でんおん連続講座 F「カラダで検証する雅楽研究 その 2」2 日目
- C03 楽拍子と只拍子の《甘州》
～『類箏治要』『三五要録』『管眼集』『古譜律卷』『教訓抄』による～
- C04 舞楽《甘州》全五帖・入綾
～『掌中要録』『類箏治要』『三五要録』『管眼集』『古譜律卷』『教訓抄』による～
でんおん管絃講（平成 30 年度メンバー）
舞：成瀬 はつみ・田鍬 智志 箏：中川 佳代子
琵琶：伊藤 慶佑 龍笛：伊藤 亜希子
笙：池内 奏音 鞆鼓：Ben BISOGNO
太鼓：陳 宗彤 撮影：東 正子
平成 31 年（2019）3 月 30 日、京都市立芸術大学大学会館ホール でんおん連続講座 F「カラダで検証する雅楽研究 その 2」2 日目
- C05 山名神社天王祭舞もの《八初児》
山名神社天王祭舞楽保存会 舞：鈴木 大雅・佐藤 陽向
撮影：東 正子 平成 29 年 9 月 17 日
京都市男女共同参画センター ウィングス京都イベントホール 第 49 回公開講座「地方に息づく京都祇園祭の芸能 遠州森町山名神社の舞もの」
でんおん管絃講による『順次往生講式』
- C06 式文 述意門・只拍子様《相佛戀（想夫恋）》二返
- C07 式文 正修門第二・催馬楽《西方楽》～《伊勢海》の音に准ず～二返
- C08 式文 正修門第三・只拍子様《陪臚》二返
- C09 式文 正修門第五・声明《往生樂 合佛》～《八句念佛》に合す～二返

C10 式文 正修門第六・只拍子様《甘州》二返
C11 式文 正修門第七・楽拍子様《老君子》二返
C12 式文 正修門第八・催馬楽《西方樂》～《更衣》
の音に准ず～二返
C13 式文 廻向門
でんおん管絃講（平成28年度メンバー）
導師（式役）・伽陀：鷹阪 龍哉
歌詠：中川 佳代子・上野 正章・今 由佳里・田鍬 智志・中尾 薫・Наталья ГОЛУБИНСКАЯ・来場者全員（以上、全曲）、伊藤 慶佑・管 亭安・陳 宗彤・山口 敦子（以上、催馬楽曲・八句念仏のみ）
箏：中川 佳代子 琵琶：管 亭安・田鍬 智志
龍笛：吉岡 倫裕 笙： 陳 宗彤・山口 敦子
箏：伊藤 慶佑 笏拍子・磬：上野 正章
梵鐘：安田 信源 撮影：東 正子
平成29年（2017）3月31日、真宗高田派本山
専修寺京都別院 でんおん連続講座H「音楽実践を
もって徳を積む～平安後期・鎌倉期の管絃講（往生講
式）、そのころ～」2日目

てる。またそれらの音楽実践を文化史の中に位置づけることで、近現代の伝統音楽・民謡の文化的意義の解明を行う。

■2020年度研究会開催日

1月28日、3月2日、3月5日。

■活動

今年度はコロナウィルス感染拡大の影響で、上記の三日間の開催に留まった（すべてオンライン）。おもに次年度の円滑な活動再開に向けての議論を行った。

近現代の伝統音楽および民謡の変容と実践

研究代表者 齋藤桂

共同研究

共同研究員：安納真理子（東京工業大学・准教授）、梶丸岳（京都大学・助教）、片岡リサ（大阪音楽大学・特任准教授／大阪大学・博士後期課程）、藺田郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）、竹内直（京都市立芸術大学ほか非常勤講師）、土田耕督（大阪大学・コースアシスタント）、出口実紀（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）、輪島裕介（大阪大学・准教授）、大久保真利子（九州大学総合研究博物館・専門研究員）

■趣旨

明治期以降から現代までの伝統音楽および民謡について、その変容と実践についての詳細を明らかにする。その中でも特に、新民謡や邦楽器を用いたポピュラー音楽演奏、現代邦楽、現代の民謡（民謡大会など）、複数ジャンルのコラボレーションや言語・文化圏を跨いだ活動等、近現代に特有の音楽実践に光を当